

ければなりません。自由主義は放任、我儘主義でなく積極主義でなくてはなりません。即ち發明創

作主義なることを重ねて述べておきます。(終)  
(フレーベル會例會講演大意、文責在記者)

## モンテッソーリの教育主義とフレーベルの教育主義と

ルイス・クライン

如何なる教育組織と雖も善いことを悉く含んで居るといふことは恐らくあり得ないことでありませう。現今諸學校に於て行はれて居る教育組織は多くの人々の教育意見を打つて一丸とした折衷的なものであります。某の教育組織が哲學的に極めて深い根據を有し、又啓發的なものであると致しましたも、それは、その組織のすべての細部が、

との如く、その兒童に對する態度の異つた二つの教育組織は一見融合することが不可能であるが如くに見受けられるのであります。而かも尙兩者の細部の或るものは容易く互ひに容れ合ふことが出來、互ひに便宜を享受し合ふことが出來るであらうと存じます。

他のすべてのものを排除してまでも、容け入れらるべきであるといふ理由とはならないのであります。

モンテッソーリの教育主義とフレーベルの教育主義とは多くの同じ原理の上に置かれてあります、兩者は共に、

フレーベル教育主義とモンテッソーリ教育主義

教育は兒童の中に力を創造することは出來ない、教育はたゞ兒童の中に潜在して居る力を喚

起するものである。

といふ公理<sup>アキシオム</sup>に出發して居ります。兒童は自己の中に貯へられたる生命力から花のやうに成長して行かなければなりません。花は日光と滋養分とを持たなければなりません、而してそれが許された範圍に於て十分美しい花となることが出来るやうに放任せられなければなりません。兒童もこれと同じやうに適當な周圍を持つてその中で發達しなければならぬのであります。これはフレーベルの言ふ所であります。しかしモンテソリー博士はこれを更に一層強く言つて居ります。

この二人の教育家は又、兒童は自身でその周圍を研究し、瓶に水を注ぎ入れるやうに諸事實を受取らされるのではなく、自身で諸事實を實見する權利を持つものであるといふことを申して居ります。乍併モンテソリー主義を奉ずる人々には、フレーベル主義を奉ずる人々がこの原理を堅實に墨守して居ると思へないのであります、フレーベル

の幼稚園に於ては、兒童は理論的には自身で經驗し、自身の結論を作るに任せてありますけれども實際は保姆が兒童に代つてこの仕事を行つてやるのであります。保姆は仕事の量と種類とを正確に決定するばかりでなく、兒童がその仕事に費すべき時間を正確に決定するのであります。それですから兒童は事實に於ては自由にその周圍を研究することは出来ないであります。

モンテソリーもフレーベルも活動的であるべき兒童の權利を擁護して居ります。それでそのに幼稚園の保姆は一般に活動の時間と量とを指圖いたします。

之を要するにモンテソリー博士はフレーベルに比して兒童の個人的相違を、より多く認めて居り集團の發達よりも個人的發達を念として働いて居るのであります。

幼稚園に於ては保姆は「さア皆さん立ちませうさア皆さん坐りませう。さア皆さん積木をしませ

う。さア皆さん紙を剪りませう。さア皆さんお話を聴きませう」と言ひます。モンテソリーの學校では斯ういふことは一つも言ひません。兒童は自分のしたいことを何でもしてかまはないのであります。兒童は何かよろこんでして居る間は決して他人の邪魔するやうなことはありません。兒童が學校といふ小さい世界に於てその仕事に努めて居るのは大人が大きな世界に於てその仕事に努めて居るのと少しも異らないのであります。

フレーベルもモンテソリーも<sup>センストレーニング</sup>感覺練習の重要であることは共に等しく認めて居るのであります。がモンテソリーの教育組織はフレーベルのそれに比して一層直接的であります。モンテソリーの教育組織は各の感覺を別々に而して科學的に訓練します。この目的のために特に工夫せられた<sup>ペンドリング、マテリヤルズ</sup>操作器具によつて兒童は色、觸感、音、形、大さ、重量等の細かい區別を漸次認知するやうになりますのであります。

フレーベルの教育組織はモンテソリーのそれに比して稍々非直接的であります、兒童は遊戲やお話を通して偶然的にその感覺練習を受けるに過ぎないのであります。

まことにモンテソリー博士の全體の組織は極度に科學的であり、而して心理學的であります。同様の科學的方法がモンテソリーの習字及び算術の教授法に適用せられて居ります。多くの幼稚園と違つてモンテソリーの學校は小學校の手工、讀書、習字、算術、圖畫を習得するための直接的な準備であります。

幼稚園の兒童が唱歌を習ひ、お話の仕方を學びつゝある間にモンテソリーの學校の兒童は文字を學び、數を覺えつゝあるのであります、而してこれは兒童が無理に強いられて教へられるのではないのであります。モンテソリーの學校の兒童は幼稚園の兒童が積木で汽車を拵へると同じ程度の興味を以つて文字を書くのであります。

フレーベルの幼稚園に於ては保母は兒童の注意力を保持するために絶えず緊張して居ります。モンテソリーの學校に於ては兒童は漸々に自身で集中することを學びます、それ故教師はなるべく後に退いて居るのであります。モンテソリーの學校に於て用ゐらるゝ器具は兒童に何事かを教ふるやうに工夫せられて居ります。兒童がその正しい使用法を覚え込んで了つた後は教師は後へ退いてその器具が兒童に教へるところのものを兒童が発見するに任せるのであります。

さて幼稚園とモンテソリーの學校との最も著しい相違は前者に於て兒童が衆團に於てはたらし、後者に於て兒童がその仕事を個人的に行ふといふ事實に横はつて居ります。最も明かな相違はモンテソリーは兒童の自由を急進的に信奉して行くといふ點に存して居るのであります。(文責在記者)

### ○主客問答

主『我國の幼稚園の現状について、どうお考へになりますか』

客『さうですなあ』

主『改良を要すべき點が澤山ありませうなあ』

客『さようですなあ』

主『どうぞ、お考へをお腹藏なくお話し下さい。第一、先づ如何なる點の改良を先きにしたらよろしいでせうか。設備でせうか』

客『それも無駄ではありますまい』

主『私共の學力でせうか』

客『それも不必要ではありますまい』

主『貴下のお考へで、一番根本的とお思ひになることは何で御座います』

客『餘り失禮になりますから申し上げますまい』

主『いいえ決してそんなことは御座いませぬ。どうぞお聞かせ下さいまし』

客『では申し上げますが、詰り、あなた方が幼稚園の教育にもつと本氣におなりにならなくてはなりません。』